

平成19年度「市川海岸塩浜地区護岸検討委員会」 第4回勉強会の結果概要

1. 日 時 平成19年9月25日(火) 18:00～20:05
2. 場 所 葛南地域整備センター 大会議室
3. 参加者 22名（委員7名、一般2名、区市4名、関係者5名、事務局4名）
4. 座 長 遠藤茂勝委員
5. 次 第 1) 景観アンケート調査結果速報（景観・親水性モニタリング）
2) 工事後1年のモニタリング調査結果速報

6. 概 要

1) 景観アンケート調査結果速報（景観・親水性モニタリング）

◇アンケート調査結果の速報を説明

- ・3,200通の配布に対し、918通の回答があり、回収率は約29%であった（9月11日時点）。想定していた回答数は600通程度であったため、検証に際し十分な回答が得られたと考える。
- ・平成18年度に検討された護岸改修イメージにおいて、「自然的な」、「防犯上安全そうな」、「利用上安全そうな」という項目の評価が低くなっている。

◇主な意見

- ・問8の「のり先での砂地のイメージ」の評価から判断すると、三番瀬に対して干潟のイメージを持っている人の多いことがよくわかる。
- ・自由意見の中で目立ったところを教えてください。

→事務局回答

便利施設の設置に係る要望や、子供が安全に遊べるような対策に係る要望が多い。

自由意見については、次回第15回委員会時に公表する。

- ・今までと異なる利用の方法を望んでいるのではないかと。
- ・防犯上危険なのは、あの地区全体について言えることだと思う。
- ・評価が低い項目について、検討が必要だと思う。
- ・塩浜地区から居住地までの距離別による評価もみてみたい。

→事務局回答

そのような属性での整理もする。

- ・「石の階段のイメージ」は、水辺へのアクセスに係る要望の表れだと思う。護岸のバリエーションを総合的に判断して検討を進めてほしい。

2) 工事後1年のモニタリング調査結果速報

◇モニタリング調査結果について説明

- ・潮間帯生物の定着状況および海底地形の状況などのモニタリング調査結果を、パワーポイントを用いて説明した。

◇主な意見

- ・隅角部に砂を入れて生物の着生状況を確認したい。

→事務局回答

微地形の変化を把握するため測量をしている。測量結果は次回第15回委員会時に提示する。

- ・水質の観測はどうなっているか。

→事務局回答

基礎的情報を得るため観測データをとっている。

- ・台風9号の波浪により、石積みが崩れたりしたか。

→事務局回答

石積みは動いてなく、影響は出ていない。

- ・波向および波高について、潮位データと照らし合わせて検証してほしい。

- ・滲筋の底質について、どのように解析しているのか。

→事務局回答

調査結果データに一定の方向性が表れていないため、傾向はつかめていない。

- ・以前現地に行った時、子供一人が入ってしまうような穴があった。なぜ穴ができたのか。また、穴はもう塞いだのか。

→事務局回答

石積みが多少沈下して穴ができた。今後工夫しなくてはいけない。穴はもう塞いだのである。

- ・今の断面で開放するのは危険であるため、議論が必要である

→事務局回答

開放する部分としない部分とを区別する必要がある。護岸バリエーションを決定する作業の中で検討を要する。

- ・カキやフジツボは人を傷つけるため危険である。安全管理について議論していく必要がある。

- ・台風9号通過後のモニタリング調査の場所はどのようになっているか。

→事務局回答

① 1工区（測線 No. 82） 地形測量、底質調査、生物調査

② 対象測線 L-2（測線 No. 58） 地形測量

③ 1工区東側端部 地形測量、生物調査

- ・行徳可動堰開放の影響による泥分の移動状況について調査してほしい。

- ・猫実川からも泥分は流出しているようだ。

- ・ウネナシトマヤガイはいつ確認されたのか。写真に撮影日がわかるような工夫をしてほしい。

→事務局回答

8月27日の公開調査において、参加者の現地解散後、調査ラインから外れた箇所を調査していて確認された。

3) その他

- ・第15回護岸検討委員会を、10月10日(水)に船橋市東部公民館で開催予定。